

人と人
つながりの物語

illustration: Maiko Dake

コープデリグループの組合員数は約540万人。組合員の皆さんの数だけ、物語がある。その物語を毎月一つお届けしていきます。描いているのは皆さんのくらしとコープデリの接点。
あなたの物語はどんな物語ですか。

70代のKさんは、「みらいひろば勝どき」で若い仲間と出会い、充実した日々を送っている。「最近のお母さんはすこい。ママチャリでさっそうとお子さんを迎えに行つて、買い物してごはんを作つて、世の中にも広く目を向けて、自分の好きなこともして。私が若い頃はそんなバイタリティはなかったの、ただただ尊敬です」6年ほど前から通っている東京・四谷の太極拳グループがコープと関わりがあり、四谷で開催しているみらいひろばを紹介された。そして引越しを機に、昨年からは東京都中央区の「みらいひろば勝どき」に参加するようになった。

「勝どきの皆さんはお若いんですよ。30〜40代くらいかしら。若い方のお話を聞けるのが本当にうれしくて。今の時代のことを教えてもらえて、新鮮です」家族の事情で都心に引越すことになったが、転居先の周辺はオフィス街で、「人が住むようなところじゃない」となじめずにいた。でもみらいひろばでの出会いで、「このまちにも普通の人々が暮らしている。人の営みがあるんだ」と実感できた。初めて参加した日、「この辺りは高層ビルばかりで、普段の買い物ができるお店がない」とこぼしたら、「八百屋さんもお肉屋さんもありますよ」と一人の女性

が帰りがけに店まで案内してくれた。徒歩のKさんに合わせて自転車を押して歩き、携帯電話の番号も教えてくれた。「困ったいつでも連絡してくださいね」という一言が、慣れない土地で孤独を感じていたKさんの胸に温かく広がった。

アメリカで暮らす娘さんに話すと、「そんなに親切にしていただいたならお礼にこれを差し上げて」と、娘さんが帰国の際にエコバッグを持ってきて、それを後日女性にプレゼントした。年に1〜2回しか会えない高齢の母親を心配する娘さんにとつて、その方の親切はKさん本人と同じくらいうれしく、ありがたかったに違いない。

みらいひろばのメンバーが最初から親切にしてくれた大きな理由は、コープが関わっているからではないかとKさんは考えている。「若い方が年寄りを受け入れるのは難しいと思うんですよ。何をしてもスピードが違うでしょ。調べものもパッと検索して、あつという間に見つけて教えてくれますし。そんな皆さんが初対面の私に親切にしてくれたのは、たぶんお互いにコープを利用する者同士、信頼感があつたからじゃないかと思っています」

夫の転勤で海外を含め10回以上の転居を経験してきたKさんは、一から人間関係を築くことには慣れていないほうだ。ボランティア活動にも熱心で、以前住んでいた名古屋では視覚障害者のための音声訳を10年以上続けた。でも、年を取ると新たに友達を作るのは簡単ではない。子どもがいなくて学校のつながりがないし、ボランティアという歳でもなくなつた。

でもみらいひろばでは、行くたびに気楽なおしゃべりを楽しんでいる。区から健康診断の案内が来て、どの病院に行くべきか迷ったときも、「ここがいいよ」と教えてもらった。「お友達ができるのはありがたいこと。やっぱり、つながりを持っていたいからです」。困ったときに相談に乗ってくれる人がいる。自分のことを気遣ってくれる人がいる。その安心感と喜びが、Kさんを支えている。

※みらいひろばはコープみらいが開催している、組合員・地域の方が誰でも参加できる集いの場。地域により名称や参加方法は異なります。

過去の物語も
こちらから読めます



あなたのエピソードを
お寄せください。

コープ職員との心に残る出来事を随時募集しています。氏名・電話番号・組合員コードを記入し、郵便(〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13 コープデリ連合会 コミュニケーション推進部宛)か、左記のWeb応募フォームよりお送りください。